

第3節 action 3 教育

～学びの心を育て、豊かな文化があふれるまち～

学校教育の充実



飢餓をゼロに



質の高い教育をみんなに

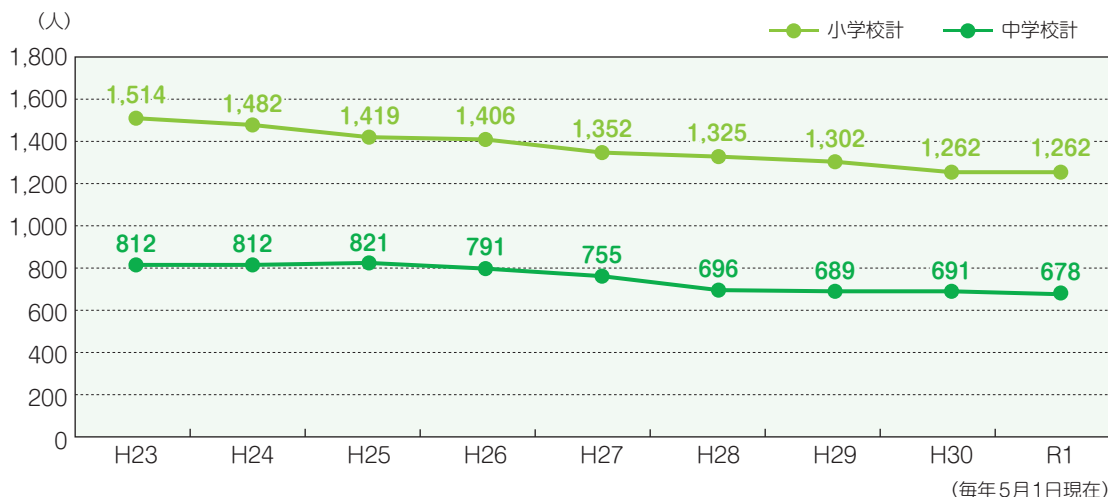
【現状と課題】

小学校から中学校までの義務教育の期間は、子どもたちの知力や体力が大きく発達し、個性と人格を形成する上でもきわめて重要な時期に当たります。経済のグローバル化や少子高齢化の進行、価値観やライフスタイルの多様化など子どもたちを取り巻く環境も大きく変化している中で、地域社会におけるつながりや支え合いが希薄化し、子どもたちを地域で育てるという考え方が次第に失われてきています。変化が激しく、将来の予測が困難な時代にあっても、子どもたちがグローバル化や科学技術の向上に対応し、自信を持って未来を切り拓き、よりよい社会を創り出すことができる資質・能力を育成することが必要です。

また、心身ともに健全な子どもを育てるため、感謝する心や感動する心、思いやりの心などを育む道徳教育や、郷土を知り郷土を愛する「ふるさと教育」をより一層充実させていくことも必要です。

一方で、市の将来を担う子どもたちが、安全な環境で安心して学校教育を受けられるためには、学校施設や教育環境の充実が重要です。少子化などの社会的要因に配慮しながら、計画的に教育施設の改修や整備を推進するとともに、国が目指す、ICT環境の整備を率先して進める必要があります。

小学校児童・中学校生徒数の推移



児童・生徒・教職員数

小学校	学級数	児童数			教諭数		
		男	女	計	正規	講師等	計
芦原小学校	13	118	118	236	18	4	22
北瀧小学校	6	33	42	75	11	1	12
波松小学校							
新郷小学校							
本荘小学校	8	70	77	147	12	2	14
金津小学校	20	258	236	494	25	8	33
細呂木小学校	8	43	46	89	12	0	12
伊井小学校	7	27	44	71	12	1	13
吉崎小学校							
金津東小学校	7	69	58	127	12	1	13
合計	69	618	621	1,239	102	17	119

中学校	学級数	生徒数			教諭数		
		男	女	計	正規	講師等	計
芦原中学校	12	131	131	262	22	3	25
金津中学校	15	207	196	403	32	7	39
合計	27	338	327	665	54	10	64

(令和2年5月1日現在)

【施策の方針】

(1) 学ぶ意欲と力を育む教育の推進

▼ 確かな学力の育成

子どもたちに学ぶ楽しさを実感させ、身近な問題を見出す豊かな感性と多様な考えをもとに問題解決ができる思考力と判断力を育成するとともに、学びの基盤となる読み解く力の育成を図り、表現する力を伸ばします。



▼ 豊かな心と健やかな身体の育成

道徳教育や体験学習の推進と充実を図り、子どもたちに思いやりの心や規範意識を醸成します。また、食育や健康教育などを通して、子どもたちが自らの健康に対する関心を高め、健康を維持し、増進するための能力を育みます。

▼ グローバル化に対応した教育の推進

金津中学校、芦原中学校および金津高等学校の生徒を対象に行っているアメリカや中国への派遣事業などの国際交流を継続するとともに、異文化に触れたり交流したりする機会の充実を図り、グローバル化の進展に対応した国際理解や外国語でのコミュニケーション



力を育てます。

(2)ふるさと教育の充実

▼ふるさと教育の充実

地域の人々との関わりの中で、郷土の歴史や自然、伝統、産業などを学ぶとともに、地域への積極的な参加や体験を通して、ふるさとあわらを愛し、地域や社会に貢献する心を育てる「ふるさと教育」を推進します。

▼キャリア教育の充実

地域にある産業・企業と協力し、子どもたちに、自らの将来について目を向ける機会を与え、夢の実現に向けて自己のスキルを磨く教育の充実を図ります。

(3)教育環境の整備

▼特別支援教育の充実

子どもたち一人一人の教育的ニーズを把握しながら、生活や学習する上での困難を改善し克服するため、生活支援員を適切に配置します。

▼教育相談体制の充実

子どもの健全育成を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制を充実します。また、いじめや不登校など今日的な課題に対応するための仕組みづくりを進めます。

▼外国人児童生徒に対する教育環境の整備

外国人児童生徒が学校生活に円滑に適応できるよう、日本語指導支援員の配置や多言語翻訳機を導入するなど、教育環境の整備を行います。

▼学校給食の充実

「安全で安心な給食」や「バランスのとれた給食」の提供を行うとともに、子どもたちが食に関心を持ち、積極的に健康や食生活に関わる能力の育成を行うため、学校給食の充実に努めます。

▼安全、安心な教育環境の整備

少子化などの社会的要因による適正配置にも配慮しながら、特別教室の空調設備など計画的に学校施設の整備と充実に努めます。また、新型コロナウイルスなど新たな感染症の予防対策を徹底し、感染しない、感染させない環境を整備します。

▼ICT環境の整備

国が進めるGIGAスクール構想[※]に基づき、一人一台タブレット端末や高速大容量の通信ネットワーク環境を整備することで、学習指導や読書活動のさらなる充実を図ることはもとより、創造性を育むICT教育を推進するとともに、正しい情報を自ら選択し、活用できる能力を育みます。

※GIGAスクール構想

Global and Innovation Gateway for Allの略。小学校の児童、中学校の生徒一人に一台のパソコンと高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子どもたちに最適化された創造性を育む教育を実現する構想

▼教育力や指導力の向上のための対策

為庶塾[※]をはじめ、教職員の研修会を開催し、教育力や指導力の向上を図ります。また、ICTの活用能力を高めるため、OJTの推進や、ICT支援員を配置します。

▼金津高等学校との連携

県内でも有数の進学校である金津高等学校と芦原中学校、金津中学校との連携を密にし、生徒同士、教員同士の交流を深めることで、教育力の向上に努めます。



指標・目標

◎小・中学校の施設が充実し、学習しやすい環境が整備されていると考える市民の割合

58.2%(平成26年) → 56.9%(令和元年) → 60.0%(令和7年)

※為庶塾

あわら市出身の医師・藤野巖九郎が信条とした「為庶(庶民のために為す)」にちなんで、教育委員会が教師の意識改革と教育力向上を目的に開催している市内教職員を対象とした研修会



青少年の健全育成



質の高い教育をみんなに

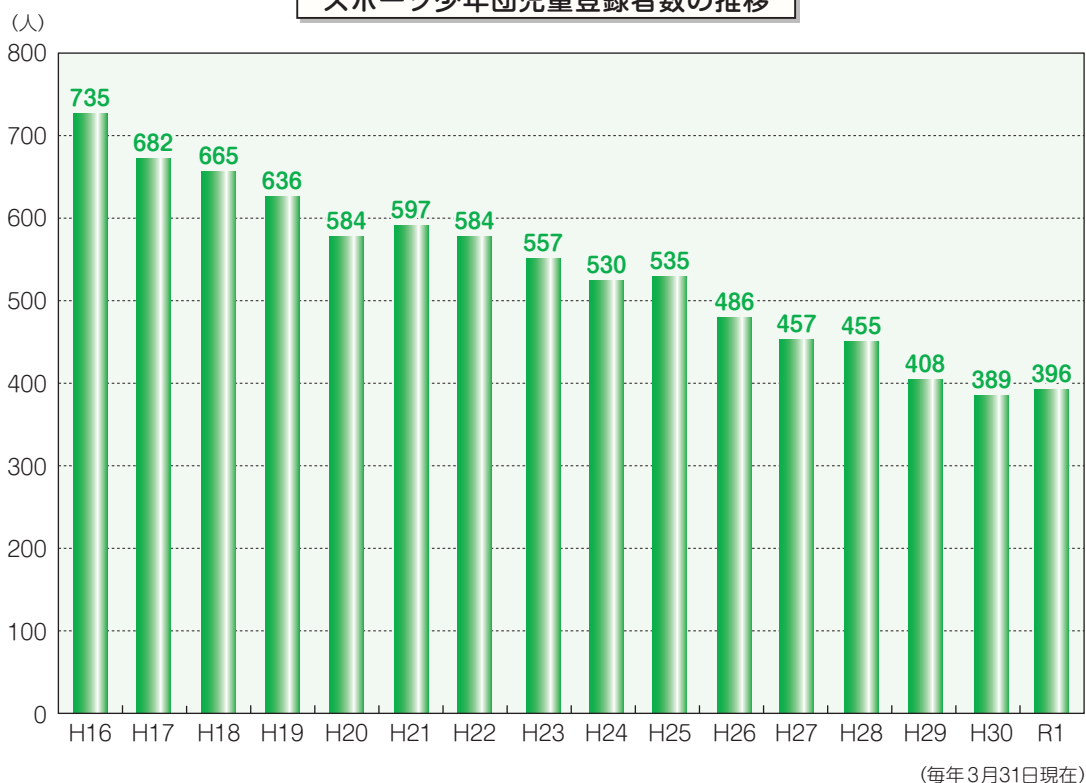
【現状と課題】

情報化の進展や少子化の進行は、親子のふれあいの不足や地域の人間関係の希薄化を招き、子どものコミュニケーション能力の低下などにもつながっていると考えられます。

また、スマートフォンの普及や通信環境の高速化は、利便性の向上をもたらした半面、未成年者の非行や犯罪被害に多大な影響を及ぼしています。

このため、家庭や地域、学校が一体となって、青少年がさまざまな社会活動に参加できる仕組みづくりを進めるとともに、一人一人が個性や長所を発揮できる機会を拡充するなどして、青少年の健全な育成を推進する必要があります。

スポーツ少年団児童登録者数の推移



【施策の方針】

(1) 青少年の健全育成

▼スポーツ少年団活動への支援

子どもたちがスポーツをする楽しさや体を動かす喜びを味わい、また、団体スポーツの輪を学び、スポーツの基礎を養いながら、一年を通じてスポーツに取り組めるようスポーツ少年団活動を支援することにより、子どもたちの健全育成を図ります。

▼少年愛護センターの運営

少年愛護センターを中心に、家庭や地域、学校、警察などの関係機関が連携して日々のパトロールやインターネット、SNSへの接し方に対する啓発など、青少年の非行防止や環境浄化などの活動を通して健全育成を推進します。

▼成人式を通じた地元意識の醸成

20歳を迎えた市民や市の出身者を対象に成人式（二十歳のつどい）を実施し、その企画・運営に新成人を参画させることにより、自らの成人を地域が祝福してくれることへの経験を通して、社会の形成者・推進者としての自覚を促し、ふるさとに対する愛着心の醸成を図ります。

▼子ども会への支援強化

子ども会が行うキャンプやレクリエーションといった自然や歴史、文化、社会体験活動への支援を行うとともに、学校や関係機関との連携強化を図り、子どもの健全育成を促進します。



指標・目標

◎スポーツ少年団児童登録率

34.6%(平成26年度) → 26.8%(令和元年度) → 38.0%(令和7年度)



生涯学習の推進



質の高い教育をみんなに



働きがいも経済成長も

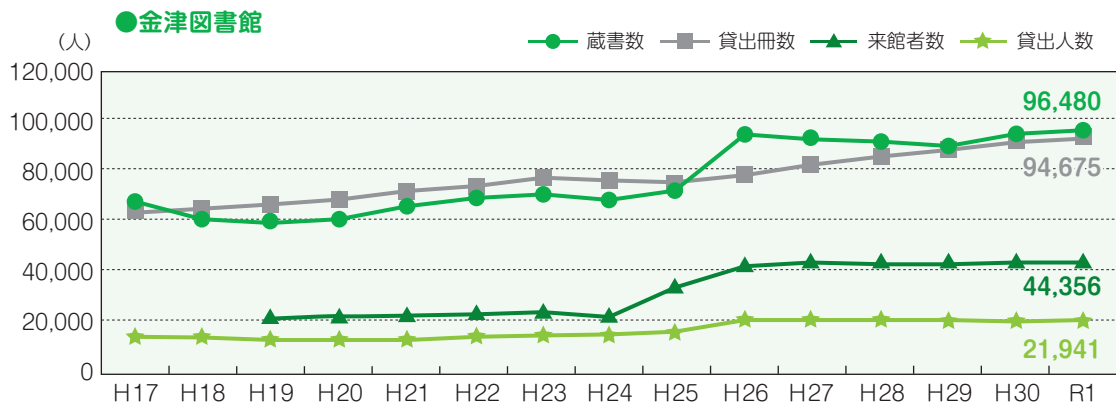
【現状と課題】

少子高齢化や情報化、国際化などにより社会環境が急速に変化する中で、心豊かに暮らしていくためには、時代にあった生きがいを持ち、生涯にわたって学びながら、自分を磨くことが大切です。文化や芸術などに親しむ生涯学習活動は、私たちの生活にうるおいと生きがいを与えてくれます。生涯学習活動がより市民に浸透し、活性化していくためには、誰もが積極的に学習に取り組むことができる環境づくりが重要です。

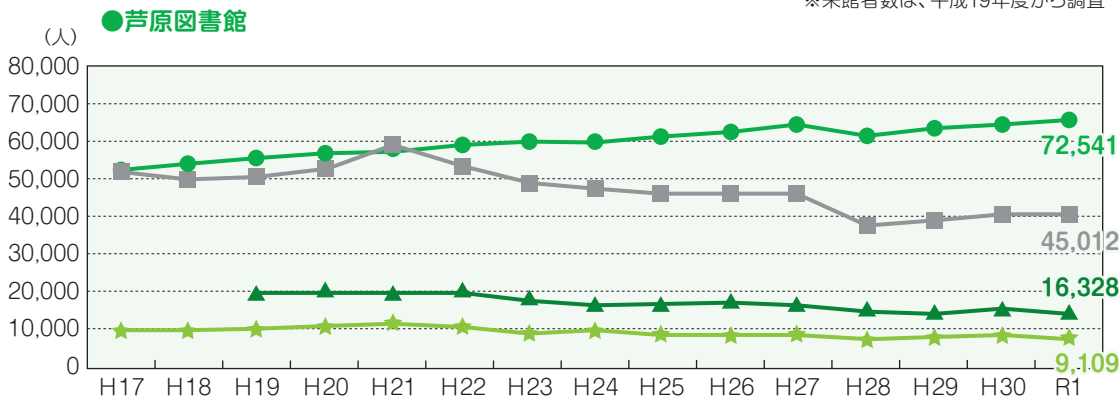
あわら市内には、9つの公民館と2つの図書館、市民文化研修センターなど生涯学習の拠点が整備されています。

これからも定年による退職などで比較的時間に余裕がある人が増加します。市民一人一人が夢や希望を持ち、個性を発揮しながら生涯にわたって主体的に学び、行動するために、文化や芸術に親しみ、元気で生涯学習活動ができる環境のさらなる充実が必要です。

図書館蔵書数などの推移



※来館者数は、平成19年度から調査



※来館者数は、平成19年度から調査

公民館利用状況（令和元年度）

施設名	定期講座		自主講座		一般利用者数
	開催数	受講者数	開催数	受講者数	
中央公民館	71	851	1,139	11,351	14,793
湯のまち公民館	56	498	886	6,230	7,628
伊井公民館	57	819	485	4,323	5,321
坪江公民館	77	754	303	2,710	6,742
剱岳公民館	26	266	111	1,342	3,775
細呂木公民館	62	823	727	5,906	3,365
吉崎公民館	43	471	137	1,146	2,063
本荘公民館	109	1,178	562	5,598	3,711
北潟公民館	57	523	209	1,482	3,473
合 計	558	6,183	4,559	40,088	50,871

【施策の方針】

(1) 生涯学習の充実

▼生涯学習推進体制・地区推進体制の整備

生涯学習の拠点である地区公民館について、それぞれの地域の特性を生かしながら地域コミュニティの核となるよう新たな組織体制を検討します。

▼公民館講座、市民大学講座の開催

各公民館で実施している公民館講座について、市民のニーズを把握しながら取り組みやすい内容のものや幅広い年齢を対象としたものなどを提供するとともに、ホームページやSNSを活用した情報発信の強化を図ります。また、知的好奇心の満足とふるさとの風土や歴史を知る上でこれまで多くの受講者が参加している市民大学講座について、内容の一層の充実を図ります。

▼図書館機能の充実

図書館を市民の身近な生活情報館と位置付け、市民のニーズに対応した資料や蔵書の充実に努めます。また、図書館窓口のほかインターネットでの貸し出し予約や、リクエストといった各種サービスなど、市民が利用しやすい環境づくりを推進するとともに、図書館だよりの発行や利用者に対するレファレンス^{*}などの情報サービスを推進します。

さらには、子どもたちの読書環境を整備するため、学校図書室の機能充実に向けた支援を行うほか、小さなころから本に触れ合い親しんでもらうため、赤ちゃんと保護者を対象としたブックスタート事業^{*}や読み聞かせ会を行うなど、誰もが読書に親しめる環境づくりを進めます。

※レファレンス

図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのもの、あるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務のこと

※ブックスタート事業

赤ちゃんのころから本に接することで、言葉と心を育てるための役に立てようという運動のこと。絵本の読み聞かせ方やスキンシップの図り方などを説明した後、絵本をプレゼントしている。



指標・目標

●公民館講座受講者数

43,313人(平成26年度) → 54,581人(令和元年度) → 55,000人(令和7年度)

●生涯を通じた文化活動や学習の機会が充実していると考える市民の割合

41.7%(平成26年) → 40.0%(令和元年) → 45.0%(令和7年)

●図書館来館者数

63,275人(平成26年度) → 60,684人(令和元年度) → 70,000人(令和7年度)

生涯スポーツの推進



働きがいも経済成長も

【現状と課題】

健康志向の高まりや余暇時間の増大などに伴い、スポーツやレクリエーションへの関心が高まっています。

その一方で、近年は運動をする習慣がある人とない人の二極化が進んでいることから、いつでも誰でも気軽にスポーツに親しめるきっかけづくりや機会の充実が求められています。

あわら市では、総合型地域スポーツクラブ「あわらトリムクラブ」が中心となって教室や啓発活動を行っているほか、ニュースポーツをはじめ、さまざまなスポーツを気軽に行うことができる機会を提供しています。



今後は、スポーツ施設の一層の充実や、一人一人の体力や運動能力に応じた指導を行える指導者を育成するとともに、あわらトリムクラブやスポーツ協会、各種競技団体などと連携しながら、生涯にわたりスポーツを楽しむことができる仕組みづくりが必要となっています。

スポーツ施設の状況

施設名	種別	面積・設備等
トリムパークかなづ	多目的アリーナ	バスケットボール2面・バレーボール3面・バドミントン6面・卓球12台
	トレーニング室	トレーニング器具12種類
	会議室	2部屋
	多目的グラウンド	軟式野球1面・サッカー2面・ソフトボール4面
	弓道場	近的4的
	ゲートボール場	屋根付3面・屋外3面
	テニスコート	オムニコート ナイター付4面・ナイター無し4面
	公園	
農業者トレーニングセンター	アリーナ	バレーボール2面・バドミントン8面・卓球9台
	トレーニング室	トレーニング器具9種類
	会議室	
金津B&G海洋センター	体育館	バスケットボール1面・バレーボール2面・バドミントン4面・卓球10台
	会議室	
市民武道館	武道館	剣道1面・柔道1面
湯のまちグラウンド	グラウンド	ソフトボール1面 ナイター設備
金津中学校グラウンドナイター	ナイター設備	軟式野球1面・サッカー1面・ソフトボール2面
柿原グラウンド	グラウンド	硬式、軟式野球1面・ソフトボール2面

※トリムパークかなづは県有施設



施設名	種別	面積・設備等
劔岳グラウンド	グラウンド	ソフトボール1面
国影グラウンド	グラウンド	ソフトボール3面・野球1面・サッカー1面
本荘ゲートボール場	ゲートボール場	ゲートボール2面 ナイター設備
北瀧湖カヌーポロコート	カヌーポロコート	常設2面・仮設2面
伊井公民館	講堂	バレーボール1面・バドミントン2面
劔岳公民館	体育館	バレーボール1面・バドミントン2面
坪江公民館	体育館	バレーボール1面・バドミントン2面
細呂木公民館	体育館	バレーボール1面・バドミントン3面
本荘公民館	大ホール	バドミントン1面

【施策の方針】

(1) 生涯スポーツの推進

▼スポーツ協会との連携・支援

スポーツ協会と連携し、市民体育祭をはじめとした市民スポーツ大会の事業内容が時代のニーズに即した効果的な大会となるよう研究するとともに、さらに多くの市民が参加する大会の開催に努めます。また、ニュースポーツ大会や各種スポーツ教室などが今後も継続的に開催されるよう支援するとともに、必要に応じて内容を検討し、市民のニーズを捉えた事業を展開します。



▼スポーツ団体の育成・支援

各種競技団体を育成・支援し、競技人口の確保に努めます。特に、総合型地域スポーツクラブ「あわらトリムクラブ」において、日常生活の中で気軽に取り組めるスポーツを推奨するとともに、少子化の影響で加入者が減りつつあるスポーツ少年団や中学校部活動の受け皿になることや、子育て世代にスポーツの機会を提供するなど、多様なニーズに対応しながら、あわらトリムクラブの機能強化を図ります。

▼指導者の育成とスポーツ活動の安全確保

スポーツにとって優れた指導者の存在は不可欠であることから、スポーツ推進委員や各種競技団体、スポーツ少年団などの指導者の人材発掘に努めるとともに、研修会や講習会を開催し、指導者の資質向上に取り組みます。また、スポーツにおけるリスクマネジメントの向上などの研修会を開催することで、スポーツ活動の安全確保につなげます。

▼体育施設の充実と効率的な活用

市民が気軽に安心してスポーツを楽しむことができるよう、体育施設の整備を行います。整備に当たっては、障がいのある人が気軽に安心してスポーツを行うことができるよう、バリアフリー化することはもとより、施設の料金体系や管理委託の枠組みを再構築し、利用者の利便性を向上させ、効率的な活用に取り組みます。

(2) スポーツによるまちづくり

▼地域資源を活用したスポーツ事業

あわらならではの魅力を体感できるマラソンやウォーキングなど、あわらの地域資源を生かしたスポーツ・健康づくり事業を検討します。

▼カヌー競技の普及と交流人口の拡大

国内外から多くの人々が参加する国内最大規模のあわらカップカヌーポロ大会の開催を通して、交流人口の拡大を図ります。また、学校の授業やさまざまな体験イベントを通して、あわらならではの地域資源を生かしたカヌー競技の普及を行うとともに、小学生から高校生に至る一連の指導体制を整備し、世界に通用するトップアスリートの育成に努めます。



▼トップレベルのスポーツイベントの開催

2018年（平成30年）に開催した福井国体のレガシーを生かし、2021年（令和3年）に開催する全国高等学校総合体育大会に向け、県やスポーツ団体と協力しながら、市民にトップレベルのアスリートのプレーを身近に接することのできる機会を提供します。

また、全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会や東京オリンピック・パラリンピック関連イベントの開催を通して、市民のスポーツに関する機運を盛り上げるとともに、ボランティアでの参加を促し「観るスポーツ、支えるスポーツ」を推進します。

▼スポーツ情報の発信

スポーツに取り組む人が自身の身体特性を理解し、安全に効果的なトレーニングができるようスポーツ科学の情報を発信します。また、スポーツに限らず、誰もが健康で豊かな生活を送ることができるよう、身近な機会を捉えた気軽な運動に関する情報を発信します。



指標・目標

◎手軽にスポーツに親しめる環境が整っていると考える市民の割合

46.2%（平成26年） → 44.7%（令和元年） → 50.0%（令和7年）

◎ニュースポーツ参加者総数

936人（令和元年） → 1,200人（令和7年度）



文化と芸術の振興



質の高い教育をみんなに



住み続けられるまちづくりを

【現状と課題】

文化財は先人たちの暮らしや歴史を知る上で、貴重な資料となります。しかしながら、適切な保護が行われない文化財も多く、劣化や散逸が進んでいるものも少なくありません。

一方で、文化財や伝統的な文化を地域づくりに生かそうという気運が高まりつつあるものの、中心となっているのが高齢者など特定の年齢層に偏っているため、幅広い年齢層が興味・関心を持つきっかけをつくる必要があります。

あわら市には、JR芦原温泉駅東側の桑野遺跡から出土した国の重要文化財「石製装身具類」や国指定史跡「吉崎御坊跡」など、多くの遺跡や文化財があります。これら貴重な文化財を後世に守り伝えていくためには、市民が市の歴史や文化について学ぶ機会を増やすとともに、文化財の保護と調査・研究を推進していくことが重要です。

このような中、「細呂木製鉄遺跡」については、地域に残された大切な遺産を後世に伝えたいと、地元有志による「たたら製鉄保存会」が発足し、遺跡の保存工事や遺跡前のミニパークが整備されました。現在は、市内の小学生を対象に製鉄実習を実施するなど、細呂木地区の歴史を伝えています。

また、四季折々に表情を変化させる自然の中で、さまざまな分野で活躍中の芸術家たちが、生活を営み、創作活動を行う金津創作の森美術館は、森のアートフェスタやクラフトマーケット、現代美術展など多彩な企画を通して全国的にも高い評価を受けています。今後も、他の美術館などがない独自のコンセプトを守りながら、市民を対象としたワークショップや芸術体験などの機会を設けて理解を深めていくことが求められています。

指定文化財一覧

区分	種別	名称	所在地	管理者	指定・登録日
国重文	考古資料	桑野遺跡出土品 (石器・石製品)	郷土歴史資料館	あわら市	平成24. 9. 6
国	史跡	吉崎御坊跡	吉崎	東、西本願寺別院	昭和50. 2.13
県	建造物	本荘春日神社本殿	中番下番入会地	春日神社	平成23. 3.25
//	史跡	横山古墳群	瓜生、中川	あわら市	昭和34. 9. 1
//	//	舟津貝塚	舟津	舟津区	昭和44. 4. 1
//	//	櫛古墳(石室)	櫛 八幡神社	櫛区	昭和48. 5. 1
//	//	千束一里塚	花乃杜三丁目	千束区	平成 2. 5. 8
県	絵画	紙本著色法然上人図像	下番	福圓寺	平成 7. 4.21
//	//	絹本著色梅山間本禅師像	御簾尾	龍澤寺	平成29. 3.31
//	//	絹本著色龍澤寺三祖像	//	//	//

区分	種別	名称	所在地	管理者	指定・登録日
県	絵画	絹本著色法然上人像 附旧裏書	轟木	浄光寺	平成31. 3.22
//	彫刻	木造執金剛神像（卍像）	北潟	安楽寺	昭和32. 3.11
//	//	石造狛犬（永正十二年銘）	沢 春日神社	沢区	平成29. 3.31
//	古文書・書跡・典跡	龍澤寺文書	御簾尾	龍澤寺	令和 2. 8. 4
//	無形民俗	北潟古謡どっしやどっしや	北潟	北潟民謡保存会	平成 6. 5.20
市	建造物	輪転経蔵	下番	福圓寺	平成 2. 3.20
//	//	念力門（本願寺吉崎別院）	吉崎一丁目	本願寺吉崎別院	平成11. 4.22
//	//	伊井白山神社本殿	伊井	伊井 白山神社	平成14. 9.10
//	//	多賀谷左近三経石廟 附供養五輪塔	柿原	あわら市	平成31. 1.25
//	絵画	武曾信濃守画像	瓜生	日源寺	昭和49.12.14
//	//	吉崎山古絵図	郷土歴史資料館	市教育委員会	昭和58. 3.19
//	//	金津城溝江落城之図	//	//	//
//	//	弘法大師画像	北潟	安楽寺	平成 1.12. 1
//	//	仏画（3 幅対）	//	//	//
//	彫刻	阿弥陀如来座像	東山 神明神社	東山区	昭和53. 5.26
//	//	薬師如来立像	中番下番入会地	春日神社	昭和56. 2.20
//	//	阿弥陀如来立像	//	//	//
//	//	薬師如来坐像	角屋 教授院	角屋区	昭和56. 2.20
//	//	天部立像（2 軀）	北潟	八雲神社	昭和56. 2.20
//	//	薬師如来坐像	//	//	//
//	//	阿弥陀如来坐像	赤尾 白山神社	赤尾区	昭和56. 2.20
//	//	十一面観世音菩薩立像	北本堂 神明神社	観音堂	昭和57.10.19
//	//	広目天立像	//	//	//
//	//	多聞天立像	//	//	//
//	彫刻	大日如来坐像	北潟	安楽寺	平成 1.12. 1
//	工芸	静波双雀文鏡	梶	個人	昭和48. 3.15
//	//	漆塗椀	郷土歴史資料館	市教育委員会	昭和58. 3.19
//	//	亀甲双雀文鏡	梶	個人	昭和58. 3.19
//	//	朱銀振分塗伊予札二枚胴具足 菅領	郷土歴史資料館	市教育委員会	平成 7. 4.24
//	考古資料	経筒	梶	個人	昭和59. 3.26
//	歴史資料	溝江家家紋入旗幟	郷土歴史資料館	市教育委員会	平成 7. 4.24
//	//	熊坂大仏	熊坂	熊坂区	平成11. 8.10
//	//	指中の板碑	指中	指中区	平成27. 3.10
//	//	仏徳寺天満神社石造狛犬（2 対）	仏徳寺 天満神社	仏徳寺区	平成28.12. 6
//	//	根上り神明神社石造狛犬（1 対）	根上り 神明神社	根上り区	平成28.12. 6
//	//	伊井白山神社石造狛犬（1 対）	伊井 白山神社	伊井区	平成28.12. 6



区分	種別	名称	所在地	管理者	指定・登録日
市	歴史資料	仲仕組創立記念之碑	春宮一丁目	あわらし市	平成31. 1.25
//	無形民俗	金津祭	金津地区 (25 区)	金津祭保存会	平成28. 5.24
//	史跡	雨夜塚	花乃杜一丁目	総持寺	昭和48. 3.15
//	//	多賀谷左近の墓	柿原	柿原区	昭和48. 3.15
//	//	柿原窯跡	山十楽	山十楽区	昭和48. 3.15
//	//	細呂木関所跡	細呂木	個人	昭和48. 3.15
//	//	熊坂専修寺跡	熊坂	熊坂区	昭和48. 3.15
//	//	桐石塔	桐	個人	昭和48. 3.15
//	//	金津城溝江館跡	大溝一丁目	妙隆寺	昭和58. 3.19
//	//	堀江公番田館跡	番田	番田区	平成 3.11. 1
//	//	旧北陸道	細呂木	あわらし市	平成10. 2.10
//	//	坂ノ下宿場口跡	花乃杜三丁目他	坂ノ下区	平成14. 8. 6
//	//	細呂木製鉄遺跡	指中	たたら製鉄遺跡 保存会	平成30. 1.12
//	名勝	龍沢寺庭園	御簾尾	龍澤寺	昭和58. 3.19
//	天然 記念物	沢 春日神社の大杉	沢 春日神社前	沢区	昭和49.12.14
//	//	大鳥神社の大銀杏	花乃杜一丁目	下八日区	昭和49.12.14
//	//	ツバキ	中番下番入会地	春日神社	昭和54.10.27
//	//	サツキ群	二面	養善寺	昭和54.10.27
//	//	イチヨウ	北湯	安楽寺	昭和54.10.27
//	//	イチヨウ	二面	養善寺	昭和54.10.27
//	//	社叢林	赤尾 白山神社	赤尾区	昭和56. 2.20
//	//	社叢林	井江葎	八幡神社	平成 3. 2.28
//	//	吉崎のキンメイチク群	吉崎	吉崎地区	平成23. 3.30
国登録	建造物	えちぜん鉄道本荘駅本屋	中番	えちぜん鉄道	平成23. 7.25
//	//	吉崎御坊蓮如上人記念館七 不思議堂主屋	吉崎	一般財団法人 本願寺文化興隆財団	平成24. 8.13
//	//	吉崎御坊蓮如上人記念館七 不思議堂供待及び塀	//	//	//
//	//	藤野徹九郎記念館 (旧藤野 家住宅主屋)	温泉一丁目	あわらし市	平成25. 6.21

(令和2年10月1日現在)



前期基本計画の
実施状況と達成率
第1章

あわらし市の現状
第2章

持続可能な開発目標
(SDGs)について
第3章

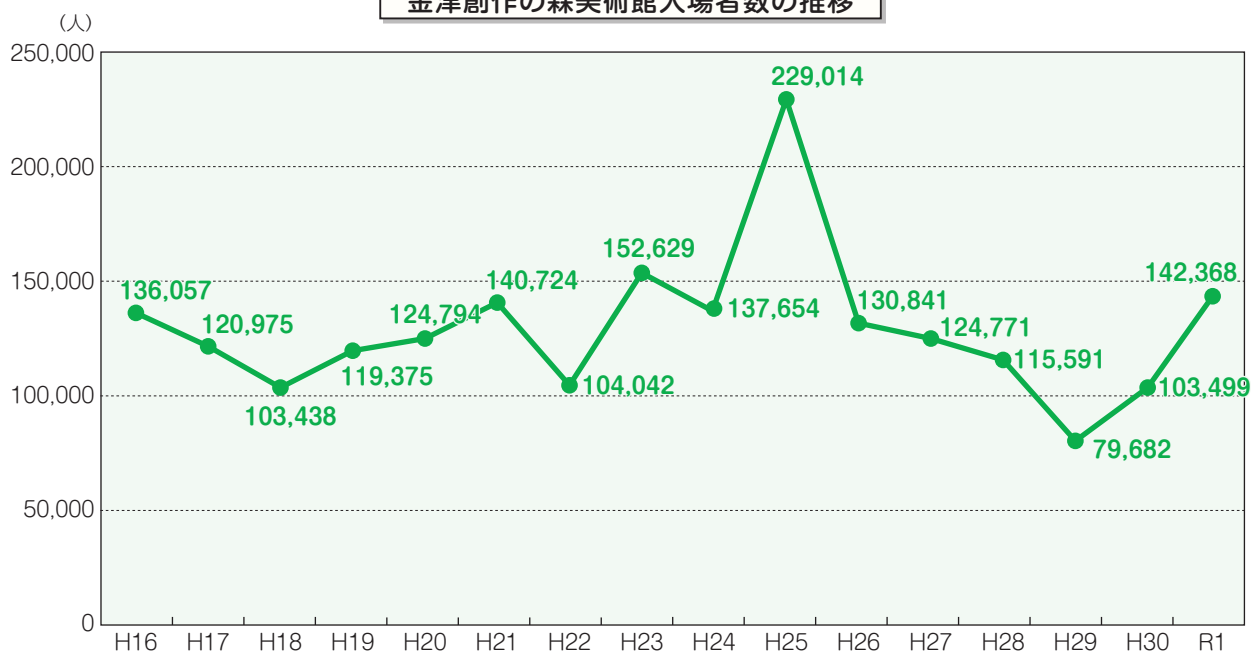
後期基本計画策定の背景
第4章

後期基本計画の
テーマと基本目標
第5章

後期基本計画の
策定方針と施策の体系
第6章

後期基本計画各論
第7章

金津創作の森美術館入場者数の推移



【施策の方針】

(1) 文化財の保護と継承

▼文化財保存活用地域計画の策定と推進

地域の文化財をその周辺環境も含め社会全体で総合的に保護・活用していくために、まちづくりや観光分野とも連携したあわら市文化財保存活用地域計画の策定に取り組みます。

▼文化財の調査と保護・活用

吉崎御坊跡や神宮寺城跡、横山古墳群など各種文化財について調査などを行い、その成果を生かした保護と活用に努めます。

▼郷土歴史資料館の管理運営

市の歴史資料や文化財を収集・展示・紹介する郷土歴史資料館の適切な管理運営に努めるとともに、市民や来訪者が気軽に市の歴史について学べる企画展や講座などを開催して、市民に市の歴史や文化に対する誇りと愛着を醸成します。

(2) 文化の振興

▼文化振興事業の開催

伝統芸能イベントや文化祭などを通じて、市民が伝統芸能や文化活動に触れる機会をつくりながら、うるおいのある暮らしづくりを推進します。また、地域の子ども会と連携した事業を展開するなど、若い人たちへのアプローチを強化します。

▼文化活動団体の育成・支援

あわら市文化協議会の構成団体をはじめとする各種文化団体の活動を支援するとともに、新たな文化活動の育成に努めます。



▼伝統文化の継承と情報発信

神楽や太鼓、古謡など市内各地に伝わる伝統文化、芸能を市民共有の財産として意識付けを図り、その保護と継承への取り組みを支援します。また、地域ごとの特徴や暮らしなどあわら独自の文化の掘り起こしを行います。

▼祭りや伝統的な風習の維持・継承

芦原温泉街を彩る「芦原温泉春まつり」や、370年余りの伝統を引き継ぐ山車巡業と祭りばやしが特徴の「金津祭」、日用品で飾り物を作る「本陣飾り物」など地域に根付く祭や伝統的な風習を守り、次世代へ地域の誇りをつなぐため、地域の担い手の育成を支援します。

(3) 芸術の振興

▼金津創作の森美術館の充実

芸術家が創作の森に拠点を置き、創作活動を行うという金津創作の森のコンセプトを守りながら、現代アートやクラフト展、音楽コンサートを中心とした芸術の発信拠点として運営を行うとともに、芸術鑑賞、ものづくり体験事業などを開催し、市民の芸術文化に対する意識の醸成に努めます。

また、企画展の開催に当たっては、企業との連携による実行委員会方式といった新たな開催方式を取り入れるなど、さらなる魅力度の向上を図ります。さらに、サブカルチャーやポップカルチャーなど、若者を含め、はじめて訪れた人が気軽に楽しめる芸術文化活動事業も検討しながら、芸術文化の充実を図ります。



指標・目標

●郷土歴史資料館入場者数

6,147人(平成26年度) → 5,516人(令和元年度) → 7,000人(令和7年度)

●金津創作の森美術館入場者数

130,841人(平成26年度) → 142,368人(令和元年度) → 160,000人(令和7年度)